



## “ちいさな企業”未来会議

（“日本の未来”応援会議 ～小さな企業が日本を変える～）

～今後の小さな企業と国・行政、「人」と「人」とのネットワークの構築～

平成24年6月16日  
“ちいさな企業”未来会議

# 今後の小さな企業と国・行政、「人」と「人」とのネットワークの構築①

## “ちいさな企業”未来会議後における継続的な対話

- 小さな企業と国・行政が一体となって、中小企業政策を真摯に見直し、より使いやすいものにしていくためには、小さな企業と国・行政の直接の対話が必要。
- “ちいさな企業”未来会議は、今後の企業と国・行政の深く長い対話の第一歩。
- ▶ 今後、更なる地道な対話を重ねていくことで、それぞれの企業の実態に合った効果的な政策を実現し、皆で、新たな「日本の未来」を切り拓いていくことが必要。

## 地方会議の継続的な実施

- 今般、全国30箇所以上にわたる地方会議を開催し、3000を超える参加者から、現場の生の声を伺った。  
→ 一つ一つの声が具体的かつ切実であり、貴重な意見であった。
- こうした取組が一過性の取組に終わることがないように、引き続き、現場の「生の声」を幅広く真摯に伺い、実態に即した施策を立案・実施していくことが必要。

- 今後も、改善すべきところを改善し、地道に継続的に地方会議を開催していく。(年10回程度)

→(開催イメージ)

年10回程度のうち、半分程度は中小企業庁において開催、残りの半分程度は地域で自主的に開催。

※今般、岡山県や東京都荒川区などで、自主的な取組として地方会議が開催されたが、こうした取組を意欲的かつ自発的に行うことも重要。

※コアメンバーの方々にも積極的に自治体等に声掛けをしていただき、地域での地方会議の自発的な開催を促すことが期待される。

## IT活用による「生の声」を政策に反映

- 今回の未来会議では、総会や地方会議等のみならず、HPで意見・提案を幅広く中小・小規模企業等の方々から「生の声」として伺った。
- 今後も、国・行政と企業がWEB上で対話により、幅広い意見や提案を取り込む仕組みを整備し、政策に反映させていくことが必要。

### 政策への反映

(イメージ)



(例: 米国「CHANGE.GOV」で国民の声を収集)

- 米国では政権移行期に、特定webサイトを立ち上げ、国民は自分のアイデア等を書き込める仕組みを構築。最後に、これらアイデアをリストアップして公表し、施策に反映。

- 中小企業庁HPや、中小企業メールマガジンによる施策の情報発信をより精力的に行っていく。

# 今後の小さな企業と国・行政、「人」と「人」とのネットワークの構築②

## 新たな「知識サポート」プラットフォームの構築

○今後も、現場の「生の声」を幅広く真摯に伺っていくことに加え、小さな企業の複雑化・高度化・専門化する経営課題・相談ニーズにきめ細かく対応できる経営支援体制を再構築することが必要。

○今回の未来会議においても、経営支援体制のあり方に関する多くのご意見を伺った。

(関係者の声)

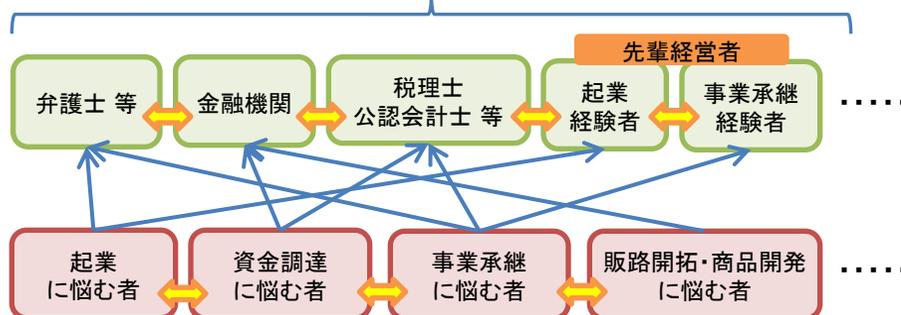
- ・起業にあたり、資金以上に知識サポートが欲しかった
- ・事業承継には、それなりの法的知識が必要であり、このような知識をサポートしていただきたい
- ・組織レベルでの広域のネットワークを構築する必要があるのではないか
- ・誰に相談したら良いか利用者に分かり易くして欲しい 等

○こうした意見を踏まえ、意欲はあるものの「知識」が十分でない者(起業を目指す人、事業承継する人等)に対し、起業・安定化・成長・事業承継の各段階での実践的で生きた「知識」を円滑に共有できる新たな仕組みを構築する。

○この仕組みは、機関を参加単位とするのではなく、意識と質の高いアドバイザー、先輩経営者、経営支援経験者など、新たな発想で構成・運営される意欲ある個人の集合体として構成される仕組みとする。

### ①地域での身近な相談の仕組み

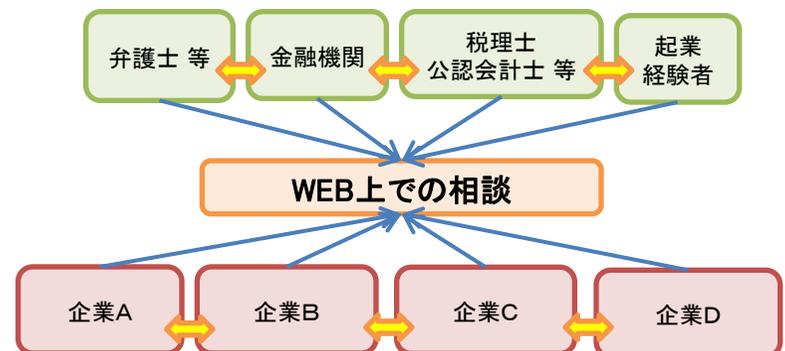
地域ごとに身近に相談・アドバイス ※ネット等も活用



※中小企業経営力強化支援法案による経営支援の充実

→ 地域の中で容易に相談できる仕組みの構築が必要ではないか

### ②ネットによる相談の仕組み



→ WEBを活用して、容易に相談できる仕組みの構築も必要ではないか